

体験版

私と結婚したいって？
お姉ちゃんのこと、
からかわないの♡」

最後は **結婚** までしちゃうお話

一線 を越えようってか、

命の **恩人** じゃある
エルフのお姉ちゃん と♡♡♡

基本CG **17** 枚 差分 **392** 枚 総枚数 **775** 枚

DOJIN

R18

成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

【今作のヒロイン】

おっとりお姉さん系エルフ

- ・処女（性知識は豊富で、オナニーの頻度はやや多め）
エッチなことに興味はあるが、特定の相手もいないので、
その手の本をオカズに、悶々とした日々を送っている
- ・頼まれると断れない性格なので、エッチなお願いをしたら、
ほぼ何でもきいてくれる素敵なお姉ちゃん
- ・森の奥にある小屋でポーション作りをして生計を立てている
基本しっかりものだが、ちょこちょこ抜けてるお姉ちゃん
趣味は読書、お茶、美味しいものを食べる
- ・エルフ族にしては社交的で、酷い差別意識も持っていない
年齢については……深く追及しない方が身の為である
- ・ある日、森で1人の傷ついた少年（貴方）と出会い、
色々あってその子（貴方）を保護することにしたのだが……





【注意】

今作は前半はラブラブおねショタものですが、
後半は成人男性に成長した主人公とヒロインがラブラブエッチをします
その点をご理解いただいたうえで、お楽しみください

あらすじ

神、悪魔、精霊にエルフ、ドワーフ、獣人、人間

英雄と魔王、剣と魔法、魔術に妖術、化学に科学

そういったものがごちゃ混ぜで存在する世界……

そんな世界で、私（貴方）は王都から遠く離れた

とある地方の小さな村の人間族の夫婦の間に生を受けた

裕福ではないが、優しい両親や親切な村の住人達に恵まれ、

平凡ではあるが穏やかで、とても幸せな生活を送っていた

そんなある日の夜、モンスターの群れが村になだれ込んできた

私（貴方）は事態を察した両親によつて地下の貯蔵庫に匿われた

じきに外が騒がしくなり、金属音や魔法の炸裂音が聞こえたが、

しばらくすると人の断末魔とモンスターの雄たけびが響き渡った

ジツと息を殺し身を潜め続け、やがて長い長い夜が明けた

モンスターの気配がなくなったので、恐る恐る外に出てみると、

そこには両親や村人たちが無残な姿に変わり果てていた

生き残りがいないか村中を探し回ったが、自分以外いなかった

一夜にして天涯孤独の身となった私（貴方）は、怖くなり、

無我夢中で走った……走って、走って、走り続けた

そして気付いた時には、深い森の中に迷い込んでしまっていた

その深い森の中で私（貴方）は一人の女性と出会うことになる

ふふっ、今日はいい買い物できて本当によかったわ♪
新鮮な薬草やリンゴだけでなく、
こんな美味しそうなパンまで手に入っちゃった
億劫がらずに、たまには街に顔を出してみるものね
あら、何の音かしら……だっ、誰かいるの？



ふふっ

ニッコッ
ニッコッ

たむたむ
たむたむ

あらあら……人間の、子供よね？

どうしたの、こんな森の奥で……ひょっとして迷子なの？

うーん、森を抜けた先の村の子かしらね？

……まあっ！よく見たらあちこち傷だらけじゃない

あら
あら



モンスターに襲われたのかしら？

お父さんやお母さんは一緒じゃないのかな？

……ええっ！ どう、どうしたの急に？

ひょっとして、どこか酷い怪我してるの？

ええっ！

ミヤ

うう



「モンスターに村が襲われて、皆……」っ、殺されちゃった」
そんなっ、そんなことが……なんてことなの

不用意に酷い事を聞いてしまつて……ごめんなさい
貴方は大変な思いをして、ここまで逃げてきたのね

そんなっ



えっ

ふう

えっと……それで貴方、これからどうするの？

誰か頼れる親戚や知り合いはいないのかしら？

「……全然、わからない……です」

そう……それは、困ったわねえ

まあっ

ぐうぐう

ねえ、難しい話は一旦置いておいて、お腹空いてる？

今日、美味しいパンを買えたんだけど、一緒に食べない？

まあ、立派なお腹の音ね、ふふっ♪

私の家すぐそこなのよ、ちよつと寄っていらっしやいな



はい、到着〜ここが私のお家です♪

「あの、やっぱり見ず知らずな僕が急にお邪魔するのは……」
ふふっ、そんなの気にしなくていいのよ

この家には私しか住んでないんだから、気負わなくて大丈夫

ふふっ

あの、

貴方は大変な目にあっただから、今は人からの好意を
遠慮することなく受け取っていいの、わかった？

まずは家に入る前に、服の汚れを落とさないと

それと傷の手当てをしてから……」「飯にしましょうね



ねっ、言った通り、美味しいパンでしょ♪

はふう〜誰かと一緒に食事するなんて、何年振りかなあ
それにしても貴方、よっぽどお腹空いてたのね

見てて気持ちがよくなる、見事な食べっぷりだわ

はふうっ

あうっ

照れない照れない♪ やっと暗い顔以外の表情見れて安心した

……お腹空いてると、どうしても余裕がなくなつて、

悪いほう悪いほうへ考えが巡ってしまうものなのよ

ほら、遠慮しないでどんどん食べてね♪



さてと、食事が済んだから貴方の寝床を用意しないとね
うん、でも生憎ベッドは一つしかないのよ
私はそのソファで寝るから、貴方はベッドを使って

「いっ、いえっ！ 僕がソファで寝ますっ！」



うっ

そう？ 本当に大丈夫？ 寝心地は保証できないわよ？

「平気……です、それよりモンスターの方が、うっ」



それなら大丈夫、私の家の周りには強い結界を張ってあるの
だから安心して、今夜はグッスリおやすみなさい

翌朝

おはよう、昨日はよく眠れたかしら？

「はっ、はい……おかげさまでグッスリ眠れました」
そうか、それならよかったわ

朝ごはんの準備するから、ちょっと待っててね

あのっ

「あっ、あの……僕、何かお手伝いを」

大丈夫だから座ってて……と言っても居心地が悪いかもね

それじゃあ、外の井戸で水を汲んできてくれる？

「はいっ！わかりました、まかせてくださいっ！」



よし、朝ごはん準備できた……ほら、貴方も席に着いて
いただきます……うん、なかなか上手にできたわ♪
食べさせる相手がいると、作り甲斐が出るって本当なのね
……ねえ、食べながらいいから聞いてくれる？

そっか

うう

貴方のこれからのことについてだけど、昨日言っていた
誰も頼れる人がいないっていうのは本当？

「……はい、頼れそうな人、思いつきません」

そっか……それじゃあさ、しばらく「」にいる？

「いや、でもそんな、「これ以上お世話になるのは……」

昨日も言ったでしょ、貴方は大変な目にあってる

最中なんだから、人の好意は遠慮せずに受け取っていいのよ

「ほっ、本当に……」にいても、いいんですか?」

ふふっ

はい!

もちろん、私がそう言ってるんだから遠慮しないでいいのよ

あっ、でも流石に家事や買い出しとかは手伝って欲しいなあ

「はっ、はいっ! 僕にできることなら何でも手伝いますっ!」

あらあら♪ 気軽に何でもって言うちゃだめよ、ふふっ

じゃあ、今日から「こ」が君の新しいお家って「と」で♪

そうになると……私は貴方のお母さんになるのかしら？

「おっ、お母さん……流石にそれはちよつと」

うーん……じゃあ、お姉ちゃんって「と」にしようか

あら
あら

あう

ねえ、試しにお姉ちゃんって呼んでみてくれる？

「あううう……おっ、お姉ちゃん」

あら、あらあらあら♪ なんだかとってもいい響きねえ
うふふう♪ それじゃあ、改めてよろしくね

じゃあ、今日から「こ」が君の新しいお家って「と」で♪

そうになると……私は貴方のお母さんになるのかしら？

「おっ、お母さん……流石にそれはちよつと」

うーん……じゃあ、お姉ちゃんって「と」にしようか

あら
あら

あう

ねえ、試しにお姉ちゃん

「あううう……おっ、お

あら、あらあらあらあ

うふふふ♪ それじゃあ

こうして私（貴方）と

彼女……お姉ちゃんとの

共同生活がスタートしたのであった

生まれ育った村がモンスターに襲われ、天涯孤独の身となり、深い森の中を彷徨っていた時にエルフの女性と知り合い、彼女の家に厄介になつてから一ヶ月が経とうとしていた

最初の数日間はモンスターの襲撃時の恐怖が忘れられず、小さな物音にも過剰に反応していたが、一週間もすると彼女の言つた通り、強い結界のおかげでモンスターの気配を感じずに済み、心も徐々に落ち着きを取り戻していったまた、故郷の村のことが気になり、彼女に頼み込んで

一緒に行つてみると、既に村を管轄していた領主が派遣した兵士達がおり、両親を含む村人達の遺体は手厚く葬られていた両親が眠っている共同墓地の場所を教えてもらい、

祈りを捧げることができ、心の傷が少し癒えた用な気がした心も落ち着き、新しい生活に慣れてきたのはよかったが、最近では別の悩みが出来てしまった

股間が大きく腫れることが多くなつてしまつたのだこれまでも時々腫れることはあつたが、そんなに頻繁ではなかつた腫れたとしても、少し時間をおけば元に戻つたのだが、

ここ最近では、なかなか腫れが引かない日が多くなつてしまつたひよつとしたら病気なのかもしれない……悩みに悩んだ結果、私（貴方）は股間の腫れについて、彼女に打ち明けることにした

えっと、それで相談したいことって、なあに？

ええっ！ 病気かもしれないって、一体どうしたの？

お腹が痛いとか、胸が苦しいとか、そういうこと？

それとも頭がボーっとするとか、歯が痛いとかかしら？

ええっ

うう

「うっ、股間が腫れてズンズンすることが多くて……んっ」

「うっ、股間？ 腫れるって、虫に刺されたとか？」

「虫刺されとかじゃなくて、自然にというか……あうっ」

「自然に股間が腫れる……って、あああっ！」

「きゅっ、急に大きな声出して、どうしたの、お姉ちゃん？」
あっ……その、何でもないから気にしないでね、うん
そっ、それより……村にいた時、ご両親や神父様から、
大人になる為の大事なお話とか、聞いた記憶はない？」

ううっ

「そういえば村の男の子は一定の年齢になると、

神父様の家に行って、勉強会をする決まりがあったよ

僕も本当なら今年の秋に勉強会に参加するはずだったんだ」

（「これって絶対そうだったよな……どう、どうしよう」）

「お姉ちゃん、僕やっぱり病気なの？」

あっ……いや、えっと病気ではないわ、本当よ

（人間族の発情って、こんな年頃の子でも始まるの？）

エルフ族なんて大人になっても発情しない人が多いのに？

ズキズキ

「でっ、でも……股間がジンジン熱を持って痛いんだよ？」

いっ、痛いくらいに腫れちゃうって………そんなっ

（どう、どうしよう………確か昔読んだ本には、

一度射精させれば落ち着くって書かれてたはずだけど）

だっ、大丈夫！ お姉ちゃんに任せて！

股間の腫れの引かせ方、知ってるんだから

「ほっ、本当？」「この腫れ、引かせる」とできるの？」「

もちろん！とっ、とりあえずベッドに移動しましょうか

まかせっ！

ほんとう？

「こはお姉ちゃんである私がなんとかしてあげないっ！

この子は私を信頼して悩みを打ち明けてくれたんだからっ！

やり方は本で読んだことあるから大丈夫……なはず」

それじゃあ、ズボンを脱いで見せてくれる？

「うっっ、恥ずかしいよぉ」

少しだけ我慢してね、やり方を口で説明するの、難しいから

まあっ

まあっ……まっすぐ上を向いて、ビクビクしてる

これ、その……腫れて痛い状態なのよね？

「うっ、うん……さっきまでは腫れてなかったのに、急に「う」なっちゃった」

（男の人の勃起していると「う」、初めて見ちゃった……なんだかドキドキしちゃう）

ビク
ビク
ミ



えっと、まずはこの……おっ、お〇ん〇んが腫れた状態についてだけど、これは勃起っていうて、簡単に言っと発情してるってことなのだから病気とかじゃないから心配いらないのよ

ブン
ン
ン
ン

ふふっ

「発情って……動物が春になると交尾して子供作るあの発情？」

ふふっ、よく知ってるわね……人族は大人になると通年で発情する種族なの

つまり、貴方も人族の大人の仲間入りを果たしたってことだから安心していいのよ

「大人の仲間入り……僕が、そうだったんだ」

それで……この勃起しちゃったおんおんの腫れを

引かせる方法なんだけど……んっ、ちよつと触るわね

「えっ、あっ……あつっっ」

サ
ワ
ッ
♥

ビ
ク
ッ

（うわあっ、何これ想定以上だわ……本には凄く熱くて硬くなるって
確かに書かれてたけど、まさかこれほど熱いだなんて思わなかった
こんなに熱くてパンパンに腫れちゃってたら、確かに辛いかもしれないわね）

「うっ、こんな感じで優しく握って、上下にシュシュって動かしてあげるの
どう、どう？ お〇んのん痛くない？ 大丈夫？」

「いっ、痛くはないけど、なんかムズムズするかも……です」

んっ

シュッ
シュッ
♡
♡

フルッ
フルッ

初めての感覚だから、まだよくわからないのかもね
このまま続けてみるけど、痛かったらすぐに言うのよ
「こ」はとってもデリケートで、んしょう……大切な場所なんだから



お姉ちゃんの家にお世話になってから、えっと勃起する回数が急に増えたから、モンスターに襲われた時に何かされたのかもって心配だったんだ」

はあ

えっ

キキッ♡

えっ、私の家に来てから急に勃起する回数が増えたの？

「うん、お姉ちゃんを見ると、んくっ……急に勃起することがあるよ」

（そう、それって……私相手に発情しちゃってるってことか？）

いっ、いやいや……流石にそう考えるのは軽率よね

よいしょっ、よいしょ……痛みはなさそうね

「このままもう少し続けましょう、ってあら？ 先っぽが濡れてきてるわ

「えっ！」「ぐっ」「めんなさい漏らしたつもりは……あうっっ」

あうっ

クチュッ
クチュッ
クチュッ

ぐっ
ぐっ
ぐっ

ふふっ♡

大丈夫、これは確か……そう、我慢汁っていったはず

気持ちよくなると出てくるお汁で、おしっことは違うものなのよ

お漏らししたわけじゃないの、だから落ち着いて

ふふっ♡でも安心した……ちゃんと気持ちよくなってくれてるのね

今度はこうして指で輪っかを作って、上下にしゅっしゅって動かすの

ぶるるる

ううう

「ううん、痛くないけど、お〇ん〇んの奥が……むっ、むずむずしてる」

よかった、大丈夫そうね……そのむずむずが気持ちいいって感覚だと思うわ

えっと……それじゃあこのまま続けるわね、んしょう、んしょう♡

「どうかな？ お○ん○んの奥むずむずするの、強くなってきた？」

「うっ、うん……んくっ、むずむずがどんどん大きくなってる感じ」

「もう少いで、この腫れが引くはずだから、がんばってね」

んく

ジコ

ジコ
♡
♡

ガク
ガク
ガク

はあ♡

「よかった、本で得た知識だけで心配だったけど、このままなんとかかなりそうね
それにしても、切なそうに我慢してるこの子の横顔を見ると、

「いつまでドキドキしてきちゃう……どう、どうしよう♡」

「……冷静に考えると、私って今、何気に凄い事しちゃってるのでは？」

「あっ、ああっ……待って、「っ、今度は本当におしっ」出そうっ」

だっ、大丈夫よ、それはおしっ「じやないから、そのまま出していいの
出そうになったら我慢しないでいいからね、もう少しだから、がんばって

あっ

くちゅっ♡
くちゅっ♡
くちゅっ♡

くっ
くっ
くっ

んっ♡

（もう少し……あと少しで射精しちゃうんだ♡

私、「この子の」ことを男の人を……イツ、イかせちゃうのね♡

って、「この子くらいの年齢でも射精ってできるのかしら？」

とにかく、「」まできたんだから、最後まで面倒みてあげないっ！）

「だめっ、お姉ちゃん本当にだめっ！ てるてるっ……でちゃうっ！」
いいのよ、大丈夫だから、我慢しないで出ていいのっ
あっ、ああっ♡わあっ……凄いでてるっ♡

わあっ♡

（こっ、これが射精……凄いで勢いで精液が出てる

やっぱり人族だと、これくらいの年頃でも射精できちゃうのね

ビクビクっておのんのんが痙攣して、まだ精液出し続けている……「くっ♡」

どろろっ
ブルブル
ビクビク

大丈夫？ 苦しくない？ ほら、見て……おしっこじゃないでしょう？

これは精子といって、赤ちゃんを作る元の一つなのよ

あと精液を出す瞬間のことを射精っていうの、覚えておいてね

すっ♡

ふっ

はっ

チュコッ♡

チュコッ♡

ちゅっ♡

ぶっ♡

だっ♡

「射精……頭がチカチカして、すっ、凄い気持ちよかった……んあっ！」

あっ、ごめんね……でもこうやって、射精した後も、

おのんのんの中に残っている精液を全部出し切ってあげたほうがいいのよ

（全部本の受け売りだけど……私、間違えたこと教えたりしてないわよね？）

よし、精液全部出し切れたみたいね……うん、よくがんばりました♪

「わあっ、本当にお〇ん〇んの腫れが引いたし、

もやもやした気分もなくなった……す「いや、お姉ちゃん」

わあっ

くたん

ひゅひゅ

ふふっ♡

どろろ

ふふっ♡お姉ちゃんにかかれば、これくらい楽勝なんだから

これでわかったでしょ、股間が腫れちゃうのは病気でもなんでも無いって

「うん、ありがとっお姉ちゃん」

（ふう、本で得た知識だけけど、なんかなくてよかったわ
よかったけど、精液のこのむせ返るようなニオイはなんなの？
独特のニオイがあるとは書かれていたけど……んうっ♡ここまでだなんて）

ぶるっ

きゅんっ♡

むわっ

んうっ♡

（いい香りとは言い難いのに、気になって仕方ない……癖になりそうな香りだわ）

「お姉ちゃん？ お姉ちゃん、どうかしたの？」

はっ！ うっ、ううんなんでもないの、気にしないで

それよりも、私が今してあげた手の動き、覚えてる？

これからは、お〇んの腫れが酷くて辛いときは、

自分で今みたいに「い」いてあげて、射精できるようにになってね。

「じっ、自分でするの？ うっっ、上手にできるかなあ？」

うっっ

うふふっ♡

私が今してあげたようにやれば、きっと上手に出来るわよ

大丈夫、もし難しそうなら、またお姉ちゃんが手伝ってあげるわ

「ほっ、本当？ 僕、あの気持ちいいの、好きになれそうかも」

うふふっ♡でもあんまりやり過ぎないように気を付けなきゃだめだからね？



これからは、お〇んの腫れが酷くて辛いときは、

自分で今みたいに「い」てあげて、射精できるようにになってね。

「じっ、自分でするの？ うっっ、上手にできるかなあ？」

うっっ

うふふっ♡

私が今してあげたようにやれば、きつ

大丈夫、もし難しそうなら、またお

「ほっ、本当？ 僕、あの気持ちいいの

うふふっ♡でもあんまりやり過ぎない

こうして初めての射精を覚えた私（貴方）は、
性の快感に魅了され、大人の階段を一步、
また一步上り始めることとなるのであった

「うふふっ♡でもあんまりやり過ぎない」

モンスターのせいで天涯孤独の身になり、エルフの女性に保護され、彼女の家で生活するようになってから二ヶ月が経とうとしていたこの森での穏やかな生活と、優しい彼女の包容力のおかげで、心の傷は確実に癒え始めているのを感じられるようになった

とはいえ、何もせずにただただ甘やかされ続ける生活を

送るのもよくないので、率先して家事や雑務の手伝いをしている彼女はこの森に自生する植物を使い、それでポーションを作り、完成したものを街へ売りに行き、結構な額のお金を稼いでいた彼女が作るポーションはとても評判がよく、

作ったら作った分だけ即完売となるくらいの人気商品らしい私（貴方）も最近ポーション作りの手伝いをするようになった

こうして新しい生活も安定してきたのだが、それは昼間の話夜になると、ほぼ毎日のように勃起してしまい、

彼女に手伝ってもらいながら股間の腫れの処理をしている最初こそ一人でがんばってしごいてみたのだが、

彼女にしごいてもらった時の気持ちよさには到底敵わず、

結局一人では上手く射精できず、彼女に頼ってしまっている申し訳ないという気持ちの反面、射精時の快感には逆らえず、今夜もまた、熱く腫らした股間の処理を彼女に頼むのであった

さてと、夕食の洗い物も済ませたし、寝る準備を……あつ
「っ」「めんさいお姉ちゃん……また勃起しちゃった」
まっ、また大きくなっちゃったのね……そう、そっかあ



うっ

むく
むく

どうする？ 我慢して、このまま寝れそう？

そう、それとも……またお姉ちゃんが手伝ってあげようか？

「おっ、お姉ちゃんに……手伝って欲しい……です」

んうっ♡そう、それじゃあ……寝室にいくっか

「ほっ、本当に」めんなさい……昨日も手伝ってもらったのに」
生理現象なんだから、気にしないでいいのよ
かえって我慢するほうが、体に悪いんだから

ふふっ♡

ぐぐぐ

貴方は「こ」最近、家事や私のポーション作りの手伝いを
一生懸命してくれて、本当に助かってるの
私の方こそ、これくらいの手助けはしないとね、ふふっ♡

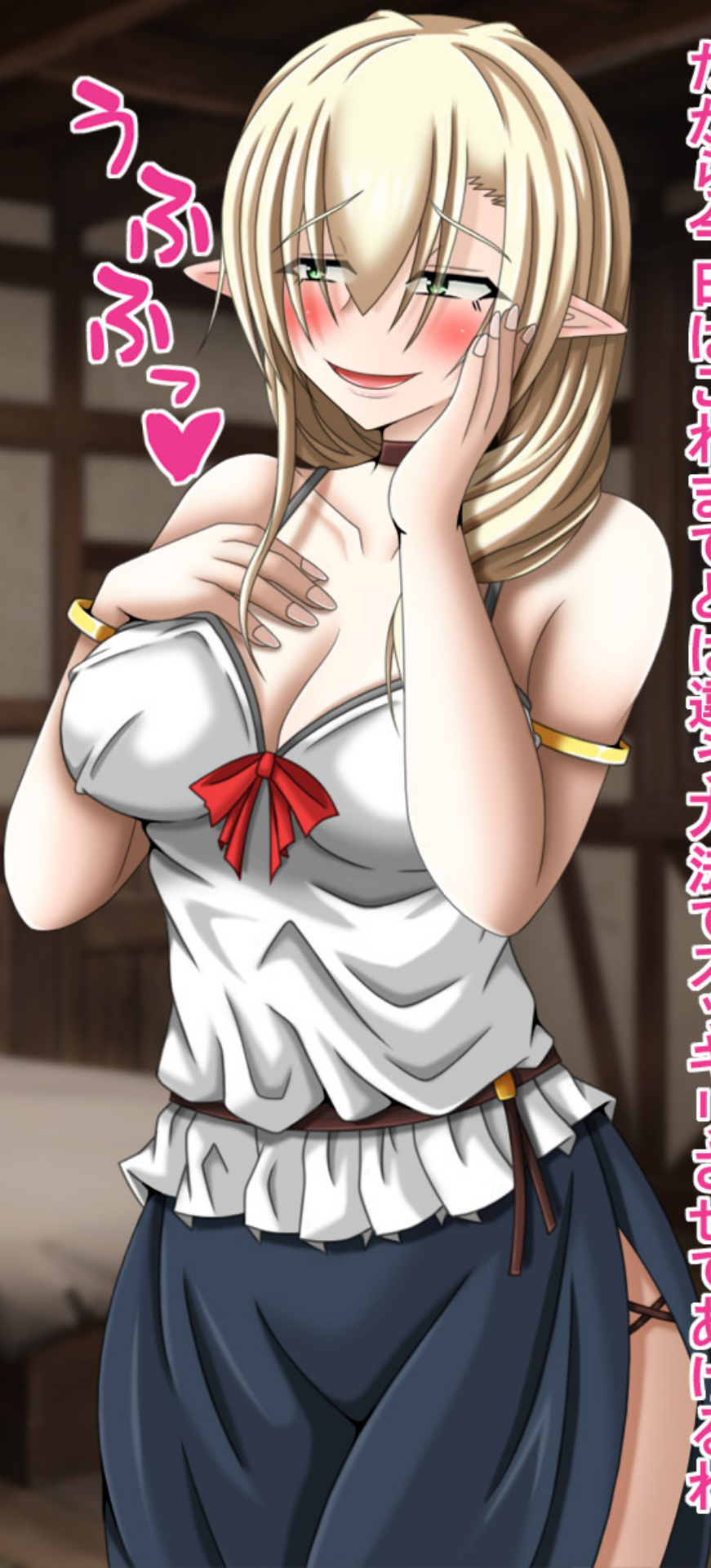
（とは言ったものの、まさか人族の性欲がこんなにも強いなんて
この子の年齢のことを考えると、末恐ろしいわね
ひょっとして私、開けちゃいけない扉開いちゃったのかしら？）



（でも切なさそうな顔で助けを求められると、胸がドキドキして
何とかしてあげなきゃって思っちゃうのよねえ……はふっ♡
どっ、どうしよう……今日はちよつとサービスして、
手じゃなくて、本に載ってたアレ……試してみようかしら）

あつ、あのね……さっきも言ったけど、「二」最近、
貴方が色々手伝ってくれてるおかげで、凄く助かってるの
だから今日は「これまでとは違う方法でスッキリさせてあげるね

うふふっ♡



ゴク
リッ

「二」これまでとは違う方法……ゴクリッ」

実は私も初めて挑戦するんだけど、ちゃんと本を読んで、

イメージトレーニングしておいたから、心配しないで

うふふっ♡♡もう期待しちゃってるの？さあ、ズボンを脱いで

えっと、それじゃあ始めるね……よいしょと、わぁっ♡

貴方のお○ん○んが目の前でビクビクって跳ねてて、凄いわっ♡

「おっ、お姉ちゃんっ……息がかかって、くすぐったいよぉ」

わぁっ♡♡

どきどき♡♡

うっう

ブン
ブン
ブン

あらあら、ごめんなさい♡ふふっ、でもちよつと息がかかったくらいでも

くすぐったいだなんて、とっても敏感なのね♡

そんな敏感なお○ん○んをペロペロ舐めたら……どうなっちゃうのかしら♡

「ええっ！ お○ん○んを舐めるって……そう、 そんな」としなくていいよお」

あら、 本にはとっても気持ちいいって書いてあったのに、 興味ないの？

「だっ、 だってお○ん○ん、 きたないから……お姉ちゃんに
そんなと」る舐めさせて、 病気になったりしたら、 嫌だよ」

まあっ♡

ええっ！

びくっ

まあっ、 優しいのね♡ でも大丈夫よ、 ちゃんとお風呂に入って洗ってるんでしょ？

「そっ、 それはもちろん洗ってるけど……うっっ」

キチンと洗ってある綺麗なお○ん○んなら、 舐めても病気にならないわよ

「ほっ、本当に舐めてもお姉ちゃん、病気にならない？」

もし万が一病気になっても、お姉ちゃん特製の解毒ポーションがあるから大丈夫♪

……どうする？ もし本当に嫌なら、いつも通り手でしてあげるけど？」

「なっ、舐めて欲しい……お姉ちゃんに、お○ん○ん舐めて欲しい……です」

ぬるっ

ブルッ

んっ♡

グッ♡

グッ♡

んっ……そっか、そっかぁ♡ふっ、それじゃ、お○ん○ん舐めてあげるね♡

（あぁ♡私ってば、またとんでもないことをこの子に言わせてしまった

でも、物凄く興奮しちゃっ……ひょっとして私も発情しちゃってるのかしら？）

じゃあ、まずはお○ん○んに優しく挨拶しないとね……ん、ちゅっ♡
「んあっ……えっ、ええっ？ お姉ちゃん今何したの？」
何って、挨拶のキスをしてあげたのよ、ふふっ♡

んあっ

ちゅっ♡

ふふっ♡

ビクッ
ビクッ
ッ

（なんだか思った以上に抵抗なく、簡単にお○ん○んにキスできちゃった
本に載ってた大人のペニスほどグロテスクな見た目じゃないからかしら？
それか私が自分で思っている以上にスケベなのか、あるいは相手がこの子だからか）

それじゃあ、お○ん○ん舐めるけど、

もし痛かったり違和感を感じたら、我慢しないですぐに教えてね

「うっ、 うん……わかったよ、 お姉ちゃん」

（本によれば「最初から啜え」もうとせず、先端を丹念に舐める事」だったわね）

うあっ

れろっ♡
れろっ♡
れろっ♡

んふっ♡

ギッ♡
ギッ♡
ギッ♡

ぞくぞく

「うあっ……はっっ！ なっ、なに「れえ」

ぺろっ……ぺろぺろっ♡んふっ、 れろれろれろっ♡

（まだ少し舐めたただけなのに、腰をビクビクって震わせて……可愛い♡）

んうっ、ペロペロっ……はあっ♡どう、どう？ 痛かったりはしない？
「うっ、うん大丈夫……それよりお姉ちゃんの舌がヌルヌルで、ああっ」
れるれるっ ふふっ、本当に大丈夫みたいね、ちゅっ♡

はあっ♡

るる♡
るる♡

ぶるっ
ぶるっ

（お風呂上りだから、ニオイは仄かに石鹸の香りがする程度ね

味も……しよっぱいとか、苦いとか、なにも感じない

うん、これなら初心者の中でも、なんとかかなりそうだわ♡）



ぺろぺろっ♡♡んうっ、レロレロッ……んっ、はふっ

「んあっ……えっ、お姉ちゃん？ なっ、なんで舐めるのやめちゃうの？」

えっ、ちよっと息を整えてるだけだけど……あら、あらあらあら♡♡

もうっ♡お姉ちゃんに舐められるの、そんなによかったの？

あら♡♡

あら♡♡

ううっ

ビウッ
ビウッ

「だっ、だっってお姉ちゃんの舌、熱くてヌルヌルで凄い気持ちよくて……ううっ」

くすっ♡大丈夫、これからもっと本格的に舐めてあげるから心配しないで

今度はお口全部を使って、お〇ん〇んをペロペロしてあげるからね♡

それじゃあ、貴方のお○ん○んの先っぽ、食べちゃうね……あむっ♡
「えっ、食べちゃうって……そんな、お姉ちゃん、はっっっ」
あむっ、んっ♡んちゅっ、れるれるるおっ♡♡



（最初から全て咥えこもうなんて考えずに、まずは先端だけを口の中に入れて、その先っぽに、よだれを塗り込むような感じで舌を動かす
焦ってすぐに動いたりせず、潤滑剤代わりのよだれをよく馴染ませるって）

（よだれがある程度馴染んだら、歯を絶対立てないように注意して、唇を使って亀頭をしごくように、ゆっくりと動き始める……だったわね）
ふっ、んうっ♡んぶっ……チュプッ、チュプチュプッ♡♡

「ひゃうっ！ おっ、お姉ちゃん……んあっ、あっ、あああっ」
（キチンと本に書いてあった通りやってみただけ、大丈夫そうね
結構スムーズに動ける……痛がってる様子もないし、いい感じだわ♡）
ふうっ
チュッ♡
チュッ♡
ふっ♡
んっ♡
ザッ
ザッ
んっ
んっ
んっ

んちゅっ、はふっ♡あむっ……くぽっ♡くぽくぽっ♡

（この子も刺激に慣れて、本格的に感じてきたみたいね……ふふっ♡
切なそうな顔で、荒い息して……私のお口、そんなに気持ちいいんだ♡）

ギョッ♡

はふっ♡

はあっ
ふうっ

くぽっ♡
くぽっ♡

ぶるっ
ぶるっ

「はあっ……ふうっ、

お姉ちゃん、お姉ちゃん」

（一生懸命私のこと呼んでる……可愛いなあ♡

ああ、なんだかお腹の奥が熱くて……頭もポーっとしてきちゃう♡）

「んくうっ、だめっ！お姉ちゃん止めて、止まってっ！」

んぐう、ぷはあっ……はあっ、んくう……どう、どうしたの？痛かったの？

「ちっ、違っよ……きっ、気持ちよすぎで、精子出ちゃらなっで」

えっ？それなら我慢せずに、射精してよかったのに、どうして？

まあっ♡

ピクッ
ピクッ

「だっ、だっ、急にお姉ちゃんの口の中に精液なんて出したら、

お姉ちゃん、ビックリしちゃうんじゃないかって思って……あつなっつ

まあっ、まあっ♡私のこと心配してくれたの？優しいのね♡

でも大丈夫、そのままお姉ちゃんのお口の中で射精していいのよ

「あうっっ……ほっ、本当にお口の中で出して平気なの？」

うふふっ ♥ 実はね、お姉ちゃん精液ってどんな味するのか、興味あるの

だから、お姉ちゃんの為にも、お口の中で射精して欲しいなあ ♥

うふふっ ♥

どきどき ♥

あうっ

ギンッ
ギンッ

「そっ、そうなの？じゃあ、お姉ちゃんのお口の中で……射精したいです」

うん、ありがと ♥ それじゃあまた啜えるけど、

今度は我慢しないで、そのまま精液出しちゃっていいからね ♥

それじゃあ、改めて……あむっ♡んふっ、あむあむっ
んぐっ、ちゅっ♡じゅるるっ……んっんっ♡

「はうっ……お姉ちゃんのお口、あつたかくて気持ちいいっ」

はうっ……

めむっ♡

くちゅっ♡
くちゅっ♡

ンワッ
ンワッ

（冷静に考えてみると、精液飲みたいたってのはちよつとマズかったかしら？

でも実際、興味はあったわけだし……うっ、悩んでもしかたないわね

今はこの子を気持ちよくさせてあげることに集中しないっ！）

あの熱くてドロドロの精液が……ああ、どんな味するんだろう♡♡

んふっ、んちゅっ♡レロレロレロッ♡チュッ、チュウワッ♡
はふっ♡あむっ、ぐぽっぐぽっ♡んっ、あむっ♡
「うっっ、お姉ちゃん、お姉ちゃん……出るっ、精子出ちゃっっ！」

でるっ
でるっ

ぐぽっ♡
ぐぽっ♡

はふっ♡

んっ♡

がく
がく

（ふふっ♡いきそうなのを必死に我慢してる顔、凄く可愛い♡

いいのよ出して♡お姉ちゃんのお口の中にたくさん射精して♡

私に貴方の精液の味、教えて欲しいのっ♡）

ちゅっちゅっ、あむっ♡んっんっんっ……チュプチュプチュプッ♡

「もっ、だめっ！お姉ちゃん、出るっ、精液出ちやうっ……んあぁっ！」

うっうっ♡んぐっ♡ん♡んうっうっ♡

うっ♡んぐ♡

んあぁっ

ブルッ

んぐっ♡んぐっ♡

ブルッブルッ

じゅるるっ♡ぢゅんっ♡♡♡

んちゅっ、チュウウウウッ♡あむあむっ……コクッ、コクンッ♡

ジュルッ、じゅるっ♡チュッ、チュプチュプチュプッ♡

（これが精液の味……熱くて苦くて、あの独特のニオイをいつも以上に強く感じる
ドロドロでなかなか飲み込めないし、お世辞にも美味しいとはいえないわね）

んっ♡♡♡

ふっ♡♡♡

チュッ♡♡♡
チュッ♡♡♡

はっ
ふっ

ブルッ
ブルッ

どっ
どっ

ズッ
ズッ

（でも、この精液は私がこの子を気持ちよくさせて搾り出した、

私の為の精液なのよね……そう考えると、なんだかちよつと特別感があるかも♡

なんとか飲めないほどじゃないから、がんばって全部飲んでしましましょう♡

んちゅううううっ、ごくんっ♡ぷはあっ……はあっ、んうっ♡

んうっ、えへっ♡貴方の精液、全部飲んじやった♡

「ほっ、本当に飲んじやったんだ……えっと、美味しかったの？」

うん……苦くて、飲みにくくて、正直美味しくはなかったわね

はあっ♡

んうっ♡

はふ

ぐいっ

ぶるるっ

でも、なんというか……そう、癖になりそうな感じがな

「美味しくないのに、癖になりそうって……むっ、難しいね」

ふふっ、確かにちよっと複雑で難しい味だったのは間違いないわっ

さてと、お○ん○んの腫れも引いた」とだし、寝る準備を……あら、どうしたの？
「あっ、あのっ……お姉ちゃん、そのっ、ううっ」
ふふっ♡モジモジしてどうしたの？ そんなにお口でするの、よかったのかしら？
大丈夫、また今度辛くなったら、してあげるわね♡

やった！

「ほっ、本当に？ やったあっ！」

あらあら♡もう夜なんだから、そんなに大きな声ださないの

ほら、もう寝るんだから、お風呂場でお○ん○んを綺麗に拭いていらっしやい



さてと、お○ん○んの腫れも引いた」とだし、寝る準備を……あら、どうしたの？
「あっ、あのっ……お姉ちゃん、そのっ、ううっ」
ふふっ♡モジモジしてどうしたの？ そんなにお口でするの、よかったのかしら？
大丈夫、また今度辛くなったら、してあげるわね♡

やった！

あらっ♡
あらっ♡

「ほっ、本当に？ やった
あらあら♡もう夜なん
ほら、もう寝るんだから

お口でスッキリ気持ちよくしてもらったおかげで
この日の夜はグッスリ眠れたのだが、
翌朝にはもう勃起してしまい、また彼女にお口で
気持ちよくしてもらおうという、贅沢な朝を迎えるのだった



さてと、おのんの腫れも引いたことだし、寝る準備を……あら、どうしたの？
「あっ、あのっ……お姉ちゃん、そのっ、ううっ」
ふふっ♡モジモジしてどうしたの？ そんなにお口でするの、よかったのかしら？
大丈夫、また今度辛くなったら、してあげるわね♡

やった！

あらっ♡
あらっ♡

「ほっ、本当に？ やった」

あらあら♡もう夜なん

ほら、もう寝るんだから

お口でスッキリ気持ちよくしてもらったおかげで
この日の夜はグッスリ眠れたのだが、
翌朝にはもう勃起してしまい、また彼女にお口で
気持ちよくしてもらおうという、贅沢な朝を迎えるのだった

……本編へ続く